

一宮市における子育て支援施設の立地と利用特性の関係についての研究

指導教員 加茂 紀和子 教授

井上 真奈

1. はじめに 近年、核家族化や地域コミュニティの希薄化等により子育ての孤立化が進み、こうした現状に対して全国に地域子育て支援拠点が設置され(表1)広がりを見せている。また、地域特性に応じた施設計画も求められようになり、事業主体や設置状況が多様化している。愛知県一宮市では地域の身近な公共施設として実施され、地域活性化を目論んだ子育て環境の整備が進められている。本研究では、立地の異なる子育て支援施設の利用実態や評価を調査・分析することで、施設の状況・役割を把握し、今後の計画に役立てることを目的とする。

2. 調査対象と研究方法 愛知県一宮市の自治体が運営する市内全6ヶ所の子育て支援施設を調査対象とし(図1)、①市担当者と各施設職員に対するヒアリング調査(表2)と、②来訪する親に対するアンケート調査(表3)を行った。③調査結果から、立地と利用実態の関係を分析し、施設に求められる役割や空間計画を考察する。

3. 調査施設概要 各施設概要を示す(表4)。(立地)〈実施場所〉の違いから3つのタイプに分けられるが規模に関わらず《中心地》の利用組数が多く〈立地〉の差によるものであると考えられる。

4. 子育て支援施設の利用実態と立地の関係 アンケートより、年齢別・立地別の利用状況を集計した。
4.1 年齢別利用状況(図2) ここでは、子どもの年齢が小さいほど、午後に来訪し、滞在時間が短く、利用頻度が増える傾向がみられた。このことから、子どもの成長段階に合わせて施設の利用方法を変えていると考えられる。

4.2 立地別利用状況(図3) ここでは、《中心地・公共》においては、2時間未満の短時間、週1回以下の頻度で利用する割合が高く、一方《住宅地・保育》においては、2時間以上の滞在、週2回以上の頻度で利用する親子が多い傾向がみられた。このことから、立地状況により親子の施設の利用に差が表れることがわかった。

4.3 立地別利用目的(図4) 全体的に、「子どもを遊ばせるため」に利用する割合が高く、また「外出場所の候補」「気分転換」として利用する親も多いことから、自宅以外で気楽に行ける・遊べる場所として活用されていることが把握できた。また《住宅地》では、「育児支援」などの親のための利用目的の割合が高い傾向がみられた。

表1 地域子育て支援拠点事業概要【注1】

趣旨	孤立化する子育て家庭の育児支援と親子交流ができる場の提供	
実施主体	市町村(社会福祉法人、NPO法人、民間事業者などへ委託等可)	
区分	一般型	選択型
基本事業内容	1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 2) 子育て等に関する相談・援助の実施 3) 地域の子育て関連情報の提供 4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施	
従事者	子育てに関する知識・経験を有する者(2名以上)	子育てに関する知識・経験を有する者(1名以上)と児童福祉施設等の職員
実施 場	公共施設・保育所・民間の建物等	児童館などの児童福祉施設等
開設日数等	週3日以上/1日5時間以上	週3日以上/1日3時間以上

表2 ヒアリング調査概要

調査目的	子育て支援施設の利用実態や評価、外出先を調査し、子育て支援施設の利用実態や役割を分析・考察する。	
調査項目	(1)基本情報 (2)活動内容について (3)施設・設備内容について (4)立地・建物について (5)運営側からの施設の役割・今後の展望	
調査施設	中央・東五城・丹陽・千秋・黒田北・里小牧(市内全6ヶ所の子育て支援センター)	
調査対象者	市担当職員・各施設職員	調査手法 訪問調査 調査時期 H28.10

表3 アンケート調査概要

調査目的	利用者の利用実態や評価、外出先を調査し、子育て支援施設の利用実態や役割を分析・考察する。	
調査項目	(1)利用状況 (2)利用評価 (3)施設利用時の外出先 (4)利用にあたっての変化 (5)今後の要望	
調査対象者	来訪する親	調査期間 H28.10.17-27
調査施設	中央 東五城 丹陽 千秋 黒田北 里小牧	
配布枚数【枚】	50 50 30 30 35 30	
有効回答数【枚】	50 50 22 30 33 30	
回答率【%】	100% 100% 73.3% 100% 94.2% 100%	

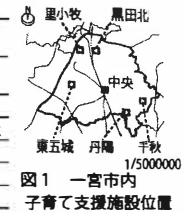
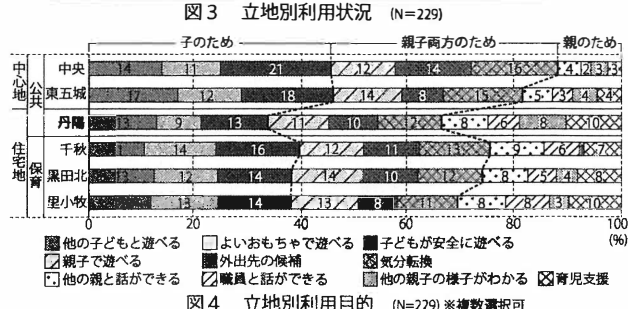
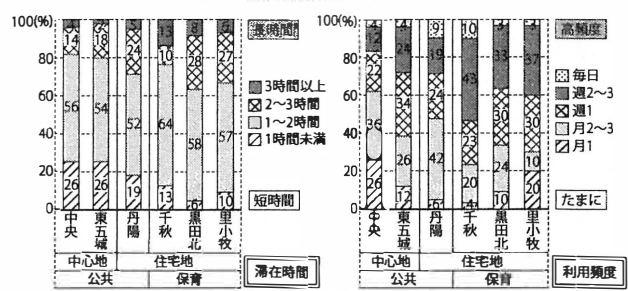
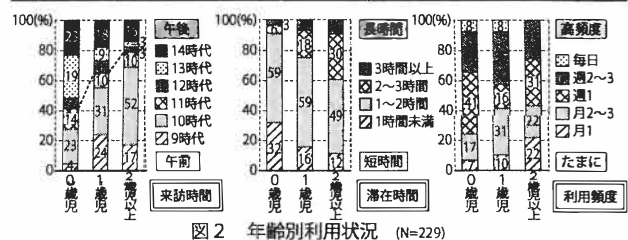


表4 各施設概要

調査対象施設	中央	東五城	丹陽	千秋	黒田北	里小牧
延床面積【㎡】	526	235	351	385	210	295
活動日/時間	毎日 9:00-17:00 月~金/9:00-16:00					
職員数【人】	6	3			2	
平均利用組数【組/日】	90	70	25	10		30

立地	中心市街地		住宅地			
実施場所	公共施設併設			保育施設併設		
	駅前ビル内5階	庁舎内2階	出張所隣接	児童クラブ併設	保育園併設	
タイプ	《中心地・公共》		《住宅地・公共》	《住宅地・保育》		



4. 4 利用目的と利用評価の関係 利用目的と利用評価の関係をみるため、コレスポネンズ分析を行った(図5)。親子の多くは「子を遊ばせる」ために利用し、「安全」「きれい」な設備環境と「家からの距離」「駐車場」のアクセス面を評価するグループであった。「ランチルーム」を利用する親は、「親同士の交流」を評価しており、「育児支援」を目的に利用する親は、「周辺施設」の評価と近くに分布したことから、[育児支援]や[交流]が[立地]と関係が強いことが示めされた。

5. 他施設と子育て支援施設の利用関係(図6・7) 《中心地》では80%以上の親子が他の施設を合わせて利用していたが、《住宅地》では約半数が子育て支援施設のみ利用であった。徒歩での周辺利用状況から、《公共》では併設された公共施設の利用が多く、子育て支援施設と相互に影響を与えていると考えられる。また、車や電車での他の施設利用状況は、《立地》の差がなく「購買施設」が最も多いことから、子育て支援施設の利用と合わせて買い物をする親子の利用状況が確認できた。

6. 子育て支援施設利用前後の親子の変化から見る施設の役割(図8) 子育て支援施設は、親子の相互交流を通して、子の成長や親子の気分転換、生活の質を向上させる役割を果たしていた。また、施設の利用を通して、外出場所や頻度が増加した親子も多く、自宅にこもりがちな子育て環境において、子育て支援施設の利用は、まちとの関係をつくり、地域の活性化に有効的であると考えられる。

7. 結論 本研究の知見を以下に述べる。(1)《立地》《実施場所》によって利用状況に違いが表れ、《中心地》では多くの親子が気軽に短時間遊べる場所として、《住宅地》では、長時間・高頻度の親子が多く、親のために利用する割合も高いことから、日常の交流の居場所として機能していることがわかる。(2)全施設で利便性と快適性が評価されている。また、周辺施設と立地・交流・支援も評価項目としてあげられる。(3)子育て支援施設と周辺施設が近接していると、相互的な利用が多くなり《中心地》では外出先のひとつとして機能している。また、車での来訪者は購買施設と合わせて利用していることが多い。(4)子育て支援施設は、親子の相互交流や育児支援の役割を果たしながら、子の成長や親子の気分転換、また外出場所や頻度の増加に繋がっている。

以上から、今後子育て支援施設の整備にあたり、《中心地》では、より多くの親子が気軽に利用できるよう、周辺環境の充実と適度な広さを確保する計画が求められ、《住宅地》では、親子の相互交流が盛んに行えるよう、快適に過ごせる日常の居場所としての環境づくりが求められると考えられる。

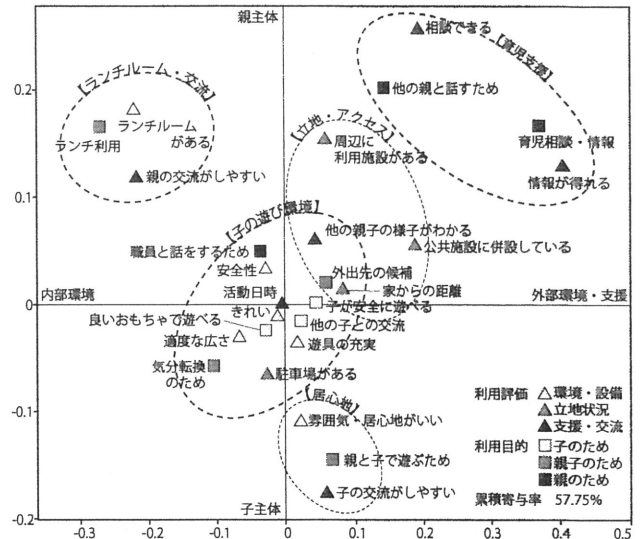


図5 利用目的と利用評価のコレスポネンズ分析 (N=229)

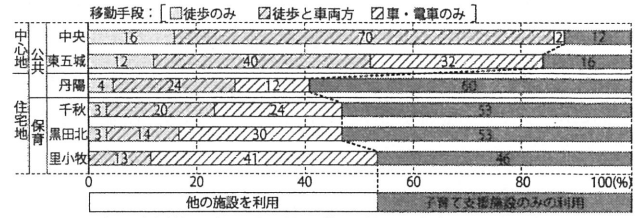


図6 子育て支援施設利用時の他の施設利用の有無と移動手段 (N=229)

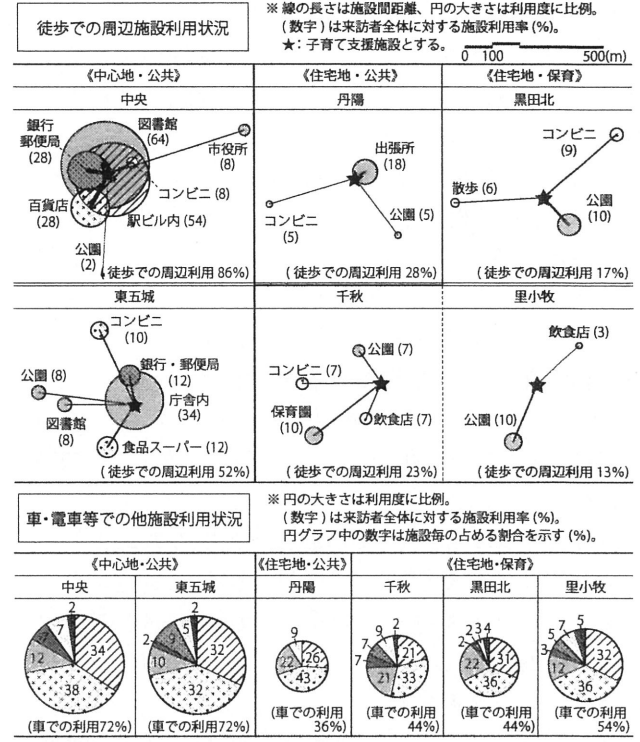


図7 子育て支援施設利用時の他施設利用状況 (N=229)

交流促進	子の成長	親の気分転換	親子でフレッシュ
親同士の交流増加	遊び方・行動	親の気分転換	親子でフレッシュ
子どもたちの交流	興味・関心	親子での遊び	子どもの気分転換
親子での遊び	他の親子との交流	先生との交流増加	生活の質の向上
先生との交流増加	生活リズム・睡眠	育児支援(情報収集)	時間の使い方
育児支援(情報収集)		外出頻度の増加	外出頻度の増加
		周辺の利用の増加	周辺の利用の増加
		外出場所の増加	外出場所の増加
		子の遊び場の増加	子の遊び場の増加

図8 子育て支援施設利用における親子の変化 (N=163) ※自由回答

【注1】厚生労働省「地域子育て支援事業実施状況」から引用。
 【参考文献】厚生労働省 子ども・子育て支援 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo_kodomo_kosodate/kosodate/index.html
 【謝辞】本研究を進めるにあたり調査にご協力いただきました、一宮市役員、施設職員、アンケートにお答えいただいた利用者の皆様へ感謝の意を表します。